

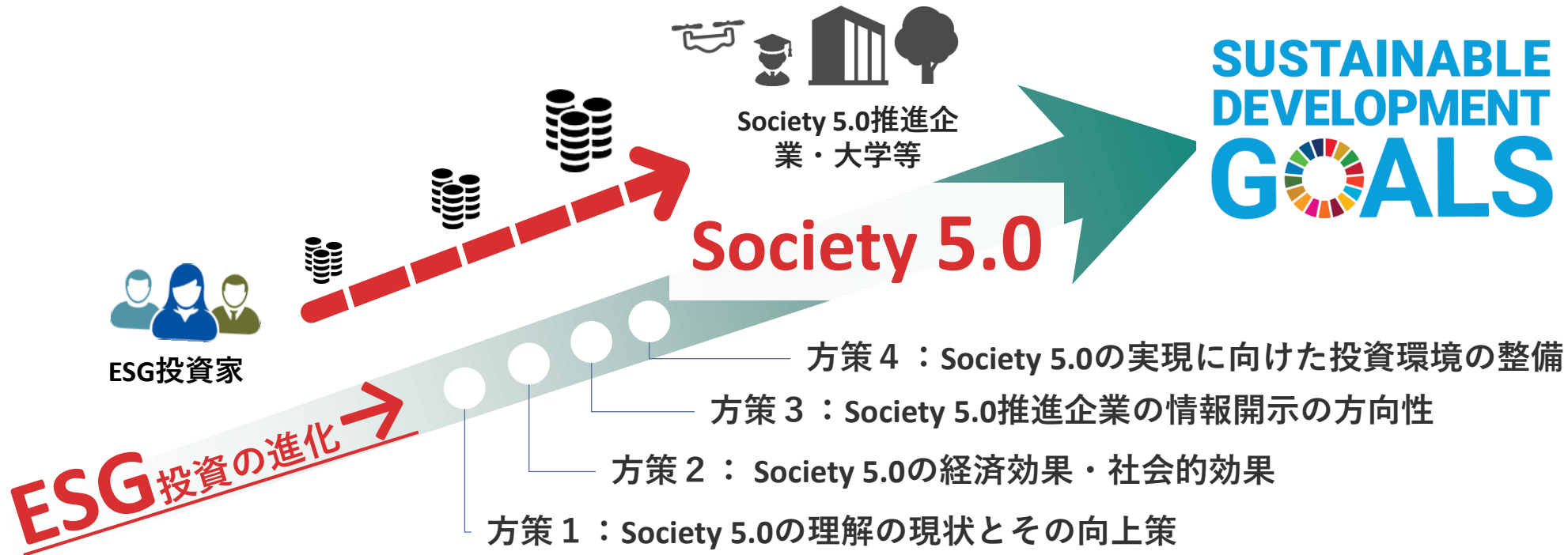
“Society 5.0とは、デジタル革新でフィジカルとサイバーの世界が高度に融合し、安心して快適な暮らしと、新たな成長機会を皆で創り出していく、持続可能で、誰もとり残されない人間中心の社会である。”

(本報告書の分析結果より)

- デジタル革新（DX）の進展、地球環境問題の危機感の高まり、経済社会構造の変化、人々のマインドセットの変化など大変革の時代に直面している。
- こうした大きな変化をチャンスと捉え、中長期的な経済成長と、持続可能で人間中心の社会の構築を図るには、日本の国家戦略である「Society 5.0 for SDGs」の実現が大きな鍵を握る。
- そこで、経団連と、わが国の多様な知の代表である東京大学、わが国を代表する投資家であるGPIFの3者でSociety 5.0 for SDGsに関する共同研究を行った。
- 本報告書を踏まえ、3者は、日本及び世界の経済成長と課題解決を牽引するSociety 5.0 for SDGsの実現に向け、グローバルな発信や、具体的な取り組みにつなげていく。

ESG投資の進化*を図り、Society 5.0を実現するための4つの方策を研究

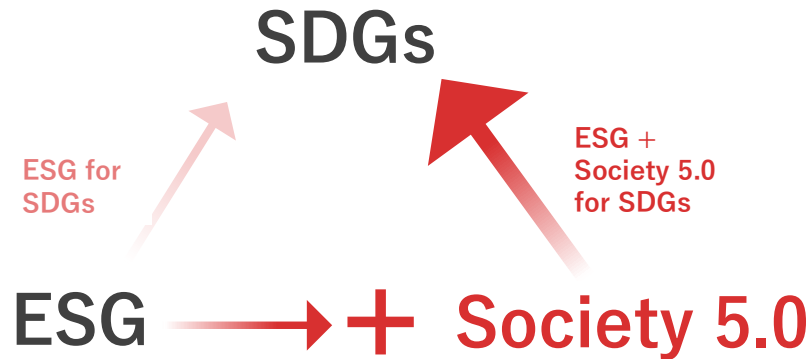
* 課題解決イノベーションへの投資促進



- 「Society 5.0 for SDGs」の実現には、企業や大学をはじめ課題解決イノベーションを推進する多様な主体に、中長期の安定的な資金が向かい、イノベーション・エコシステムが自律的に進化していくことが不可欠である。
- そこで、現在、グローバルに拡大するESG投資の動きを捉え、ESG投資の進化（課題解決イノベーションへの投資促進）を図り、Society 5.0の実現、そしてSDGsの迅速かつ確実な達成を図る。そのための4つの方策を検討する。

方策1：Society 5.0の理解の現状とその向上策①

現状

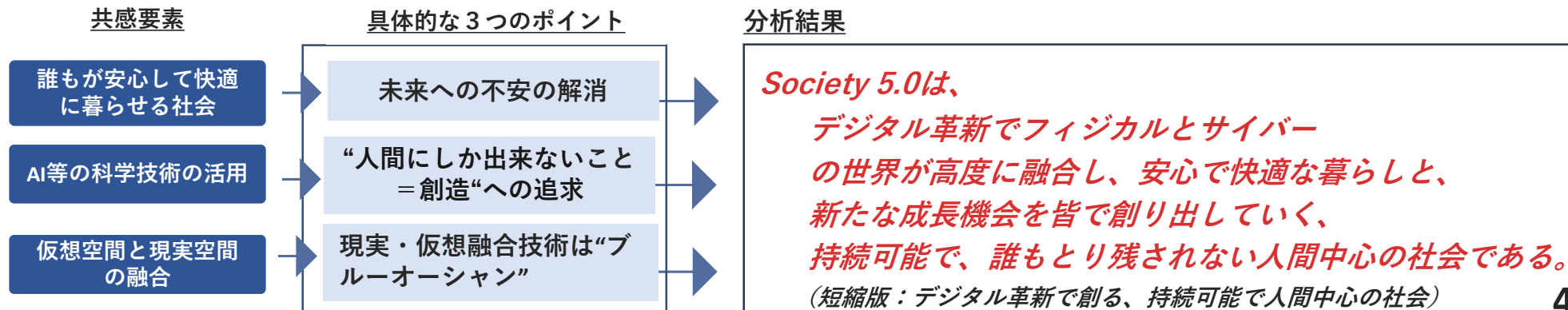


- 企業・投資家アンケートでは、Society 5.0の認知度はESGやSDGsと比べて低い
(→P13：参考参照)
- 一方、ESG投資にSociety 5.0を組み込んだ場合の投資家の認識は、以下が実現できるとなっている。
 - ① より高リターン
 - ② より幅広い課題の解決
 - ③ 様々な企業価値の向上
 - ④ 企業と投資家との経営に関する未来志向の建設的対話が促進

Society 5.0の理解の向上を図ることは、ESG投資の進化に向けて重要。そこで理解の向上に向けた4つの具体策を提示。

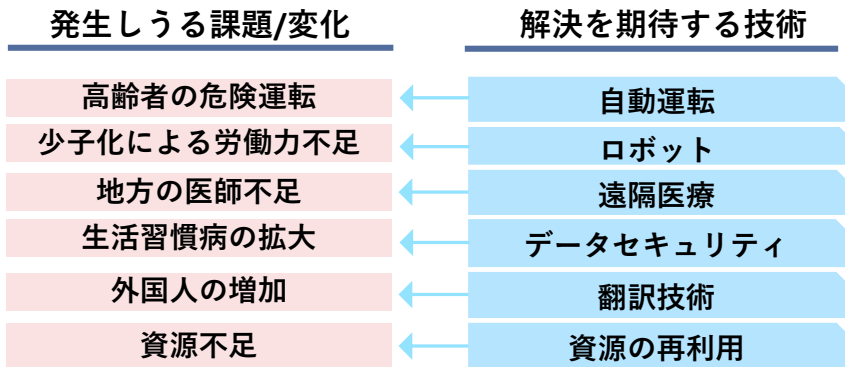
具体策①：より分かりやすいフレーズの特定

Society 5.0への理解の向上には、短くわかりやすい説明、共感が得られる言葉で表現する必要がある。アンケート調査と自然言語解析により得られた結果は以下の通り。



方策1：Society 5.0の理解の現状とその向上策②

具体策②：Society 5.0で優先的に解決を期待する課題・技術



※ 上図は結果の一部

- Society 5.0の具体例を示し、理解の向上につながるため、Society 5.0で解決を期待する課題や社会実装を期待する技術を探る
- その一環として、企業・投資家向けアンケートで、Society 5.0で解決を期待する課題や、将来社会実装を期待する技術等を調査

具体策③：Society 5.0の理解の向上を図るツール

Society 5.0に関するPR動画の作成、Society 5.0プラットフォームの設立（"Theater 5.0"）など

<https://www.theater5-0.com/>

具体策④：影響力のある機関へのアプローチ

企業・経済団体

- B20（先進主要20カ国の経済団体）
2019年の東京サミットでは「Society 5.0 for SDGs」が共同宣言の柱となっており、連携を引き続き推進する
- WEF（世界経済フォーラム）
- WBCSD（持続可能な開発のための経済人会議）
2020年10月に東京で総会を開催、今後30年間の将来ビジョンを提示する予定。Society 5.0 for SDGsとの連携を図る
- ICC（国際商業会議所）を含む各国の経済団体

投資家

- PRIやTCFDなどの投資家のイニシアティブ
- World Benchmark AllianceやGRI、ESG評価機関
Society 5.0 for SDGsの実現に向けた情報開示のあり方などについて連携および検討を図る

大学・研究機関

- 日本国内外の大学・研究機関、ブルッキングス研究所や、Future Earthなど学術界の国際イニシアティブ

政府・国際機関

- 政府・各省庁に加えて、国連をはじめUNDPや世界銀行、IUCNなどの国際機関

その他、若者・将来世代など

方策 2 : Society 5.0の経済効果・社会的効果①

概要

- Society 5.0の経済効果、社会的効果が実現する理由、また試算結果を示す

Society 5.0で経済効果、社会的効果が実現する理由

経済効果
が実現す
る理由

新商品・サービスによる市場の代替
潜在需要へのアプローチが可能に
生産投入の大幅な削減によるコスト圧縮
経済取引の加速

社会的効
果が実現
する理由

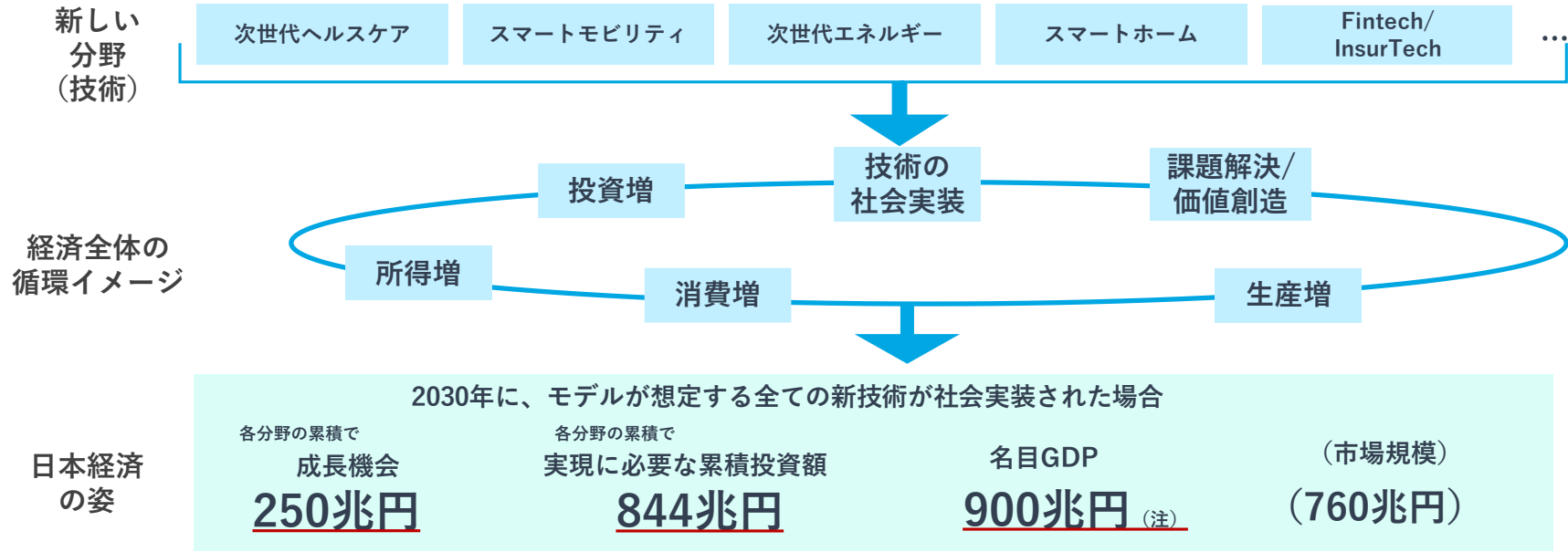
個々人の制約の解消、社会的課題の解決
あらゆる課題を最適かつ同時に解決
インクルーシブな成長
各種倫理規範の重視

Society 5.0の実現による経済効果（分野別：定量分析）

産業分野（抜粋）	成長機会（2030年）	（市場規模（2030年））
次世代ヘルスケア	36.2	（95.1）
ものづくりのデジタル化	28.5	（108.0）
スマートモビリティ	21.3	（64.4）
スマートリビング	18.9	（46.0）
次世代エネルギー	19.3	（37.4）
FinTech/InsurTech	14.5	（35.1）
サイバーセキュリティ	4.4	（15.9）
スマート農業	7.0	（15.1）
デジタルエンターテイメント	2.8	（6.8）

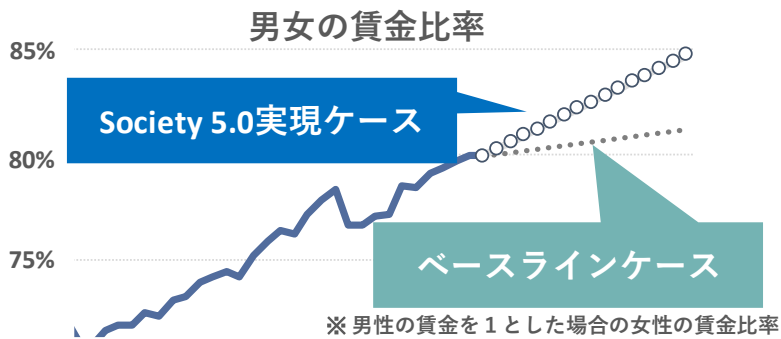
方策 2 : Society 5.0の経済効果・社会的効果②

Society 5.0の実現による経済効果 (マクロ：定量分析)



(注) 名目GDPは2015年を起点、2016-19年の4年間の経済成長率の実績値を織り込んでいない
 (参考：榊原ビジョン (2015) : 2030年時点で名目833兆円、平均成長率+4.0%)

Society 5.0の実現による社会的効果 (定量分析)



環境 (人が自然と共生できる社会)

- 次世代エネルギー技術の導入によりエネルギー効率の大幅な向上を実現

社会 (誰もが多様な才能を発揮できる社会)

- 男女の賃金格差が縮小
- 65歳以上の高齢者の就業者数が100万人増加

(野村浩二 21世紀政策研究所研究主幹/慶應義塾大学教授の試算結果 (野村 (2020)) より)

方策3：Society 5.0推進企業の情報開示の方向性①

概要

- Society 5.0に取り組む企業への投資拡大には、企業・投資家間の建設的な対話に資する情報開示が不可欠。
- そこで、長期ビジョン等の“未来”財務情報（企業の将来の成長を期待させる開示情報）と、それに対する投資家のコメント／フィードバックを自然言語処理し、投資家が求める長期ビジョン等の内容や表現方法について分析。

分析手法



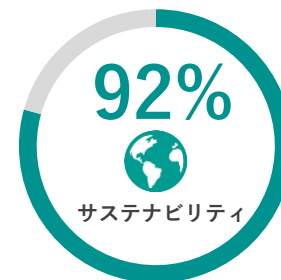
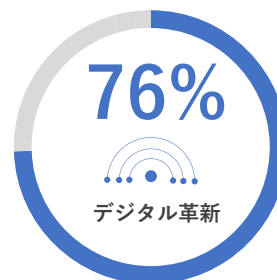
- ① 企業が長期ビジョン等を記入
- ② 企業の回答に対して、ランダムに選ばれた投資家がコメント／フィードバック
- ③ ①・②の内容を自然言語処理。投資家が求める長期ビジョン等の内容や表現方法を抽出

※ 企業:105社、投資家117名が参加する調査結果をもとに分析

方策3：Society 5.0推進企業の情報開示の方向性②

投資家が重視するSociety 5.0のキーワード

将来の企業の成長に向けて、投資家の76%は「デジタル革新」を、92%は「サステナビリティ」を重視。さらに、以下の点に着目。



投資家が着目するトレンドは以下の8つ

人口構造の変化

技術を活用した安全で
スマートな生活

気候変動と災害防止

大都市への集中

健康寿命の延伸

循環型社会の形成

働き方の多様化

文化の多様化

投資家が将来の成長を期待する、企業の長期ビジョンの3つの要素

 人を起点とする
事業展開

未来技術の先取りとその活用により、
人々に新たな価値をもたらす
人を起点とする事業展開を目指す



グローバル課題
の解決

グローバル課題を明確化し
具体的な目標等を掲げ
その課題解決を目指す



新たな市場の
創出

既存事業の強みを活用しながら
多様なニーズを捉え
新たな市場の創出を目指す

投資家が評価する情報開示の書き方のポイント

トレンドへの捉え方

- ・自産業で起こるトレンドの言及
- ・網羅的な把握、自社の優先度の提示
- ・自社事業を踏まえたユニークな観点

“成長性”を期待させる視点

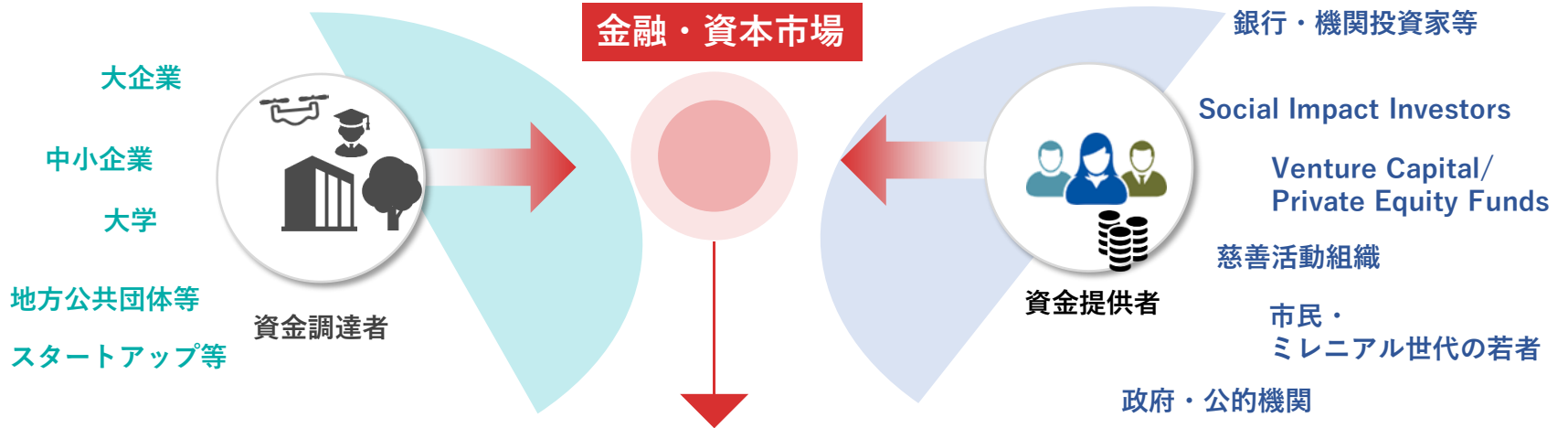
- ・未来社会の中での自社の役割の明確化
- ・具体的な取り組みの実行
- ・自社ならではの優位性の説明

“持続可能性”を期待させる視点

- ・SDGsとの関連性や目標が明確化
- ・具体的な取り組みの実行
- ・自社の事業成長との両立の説明

方策4：Society 5.0の実現に向けた投資環境の整備①

Society 5.0の実現に向けた投資環境の整備における各主体の役割の具体案の例は次の通り



資金調達者の役割

- ・ イノベーション、研究開発の加速
- ・ Society 5.0 for SDGsの取り組み推進
- ・ 社内への理解浸透
- ・ 統合報告書による発信、コミュニケーション

企業・投資家の連携

- ・ Society 5.0に関する企業の情報開示、投資家の投資判断の指針の策定

資金提供者の役割

- ・ Society 5.0への認知と理解
- ・ Society 5.0の投資原則への盛り込み
- ・ エンゲージメント
- ・ 投資家イニシアティブの推進
- ・ Society 5.0に関する投資手法（インデックス）の形成

投資環境の整備に向けた、その他の主体の具体的な役割

政府

- ・ Society 5.0実現会議の設立
- ・ Society 5.0推進企業へのインセンティブ・メカニズムや表彰制度の創設
- ・ Society 5.0 for SDGs、グリーン予算の特定と国債の発行

大学・研究・評価機関

- ・ Society 5.0に関する商品・サービス、プロジェクト、技術等が実際に社会に与える影響（インパクト）を測定、評価する手法の研究

など

方策4：Society 5.0の実現に向けた投資環境の整備②

大学、スタートアップへの投資促進に向けた具体例

【大学】

- Society 5.0に資する技術の特定や技術に関する情報提供の拡充、企業・大学共同ビジョンの形成（産学共同研究の更なる促進）等

【スタートアップ】

- スタートアップの社会的意義の理解浸透、CVCの設立、出島組織の設立、海外VCとのマッチングの機会の拡大等

アンケートで投資家から寄せられたスタートアップ投資促進に向けた課題

スタートアップの課題

- ・ グローバルな規模でビジネス展開できる有望なスタートアップが米国と比べて限定的
- ・ 英語での情報発信が不足

投資家の課題

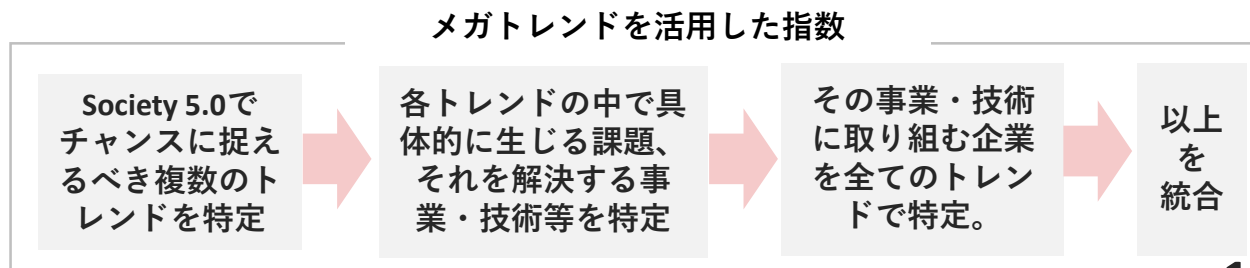
- ・ 投資家の短期志向、経験不足、アセットオーナーが上場株式を选好、ニーズが少ない

その他の課題




- ・ 日本社会が異端やリスクテイクに冷淡

Society 5.0に関する投資手法（インデックス形成）に向けた具体例

- ・ メガトレンドを活用した指数
- ・ DX指数とESG指数の統合運用
- ・ 課題解決ファンドの組成



おわりに：経団連・東京大学・GPIFのアクションプラン

取り組み主体	アクションプラン
3者で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● Society 5.0の認知・理解の向上（Society 5.0の国内外への発信、国内外の企業・投資家向け行動原則へのSociety 5.0の盛り込み推進）
	<ul style="list-style-type: none"> ● Society 5.0の実現にチャレンジする企業や取り組みの後押し <ul style="list-style-type: none"> ● Society 5.0に関する経団連の各種提言や企業行動憲章で示された企業の変革に向けたアクションプランの推進 ● イノベーションを通じた課題解決イニシアティブの更なる推進（例：「チャレンジ・ゼロ」構想など） ● ESG投資家とSociety 5.0推進企業等とのマッチング推進 ● ベンチャーエコシステムの進化に向けた取り組み推進 ● Society 5.0の実現に向けた企業年金による投資の促進やスチュワードシップ活動の推進 ● Society 5.0に関連する金融商品（投資信託等）の開発・普及の推進 ● Society 5.0の実現に向けた更なる検討 <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルトランスフォーメーション（DX）会議を通じたSociety 5.0の産業構造の姿や企業変革アクションプランの提示 ● 各委員会を通じたSociety 5.0実現に向けた政府をはじめ多様なステークホルダーへの働きかけ
	<ul style="list-style-type: none"> ● フィジカルとサイバーの両空間におけるグローバル・コモンズに関する研究など、Society 5.0を支える望ましい社会経済システムとその方向へ誘導する方策について研究 ● 知のプロフェッショナル、知のアントレプレナーとしてSociety 5.0をリードする人材の育成 ● 大学を核としたベンチャー・エコシステム・モデルの形成など、産学協創に向けた取り組みを関係機関との協力を図りつつ加速 ● ソーシャル・インパクト評価のあり方に関する研究など、Society 5.0 for SDGsの実現を担う企業等へ投資が向かうための制度・枠組みの研究や投資手法の開発
	<ul style="list-style-type: none"> ● GPIFは、積立金の運用において、投資先及び市場全体の持続的な成長が、運用資産の長期的な投資収益の拡大に必要であることの考え方を踏まえ、以下の取り組みを検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 投資原則等に、Society 5.0やSDGsを組み込むことの検討 ● ESG投資促進の観点から、Society 5.0に関する情報開示の後押し ● ESG投資を進化させるため、運用機関をはじめ多様なステークホルダーとの協働 ● ESGとSociety 5.0を結びつけるための建設的なエンゲージメントの推進と適切な評価方法の研究 ● Society 5.0の実現を担う企業の長期的なパフォーマンスに関する継続的な研究 ● Society 5.0に関連する金融商品の開発・普及に向けたESG投資家の知見の活用

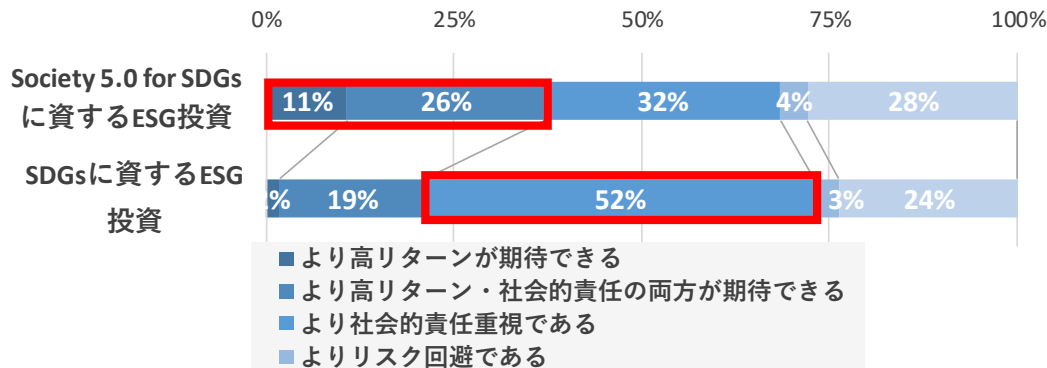
参考：企業・投資家向けアンケート

- 経団連金融・資本市場委員会、企業行動・SDGs委員会、スタートアップ委員会408社中102社・GPIFの運用機関34社中117名の投資家(日系:66%、米系:23%、欧州系9%/営業部:39%、運用部:32%)が回答

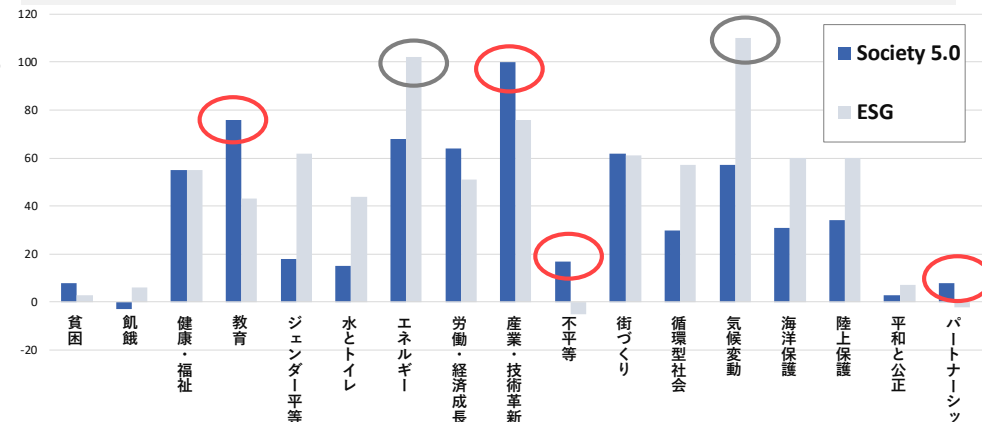
Q：Society 5.0/ESG/SDGsの各々について知っていますか

		内容を知っている	内容をある程度知っている	言葉は聞いたことがあったが、内容は知らない	全く知らない
Society 5.0	企業	47%	29%	15%	10%
	投資家	30%	22%	21%	28%
	一般	3%	13%	27%	57%
ESG	企業	70%	23%	4%	4%
	投資家	95%	5%	0%	0%
SDGs	企業	75%	21%	2%	2%
	投資家	79%	20%	0%	1%
	一般	12%	26%	25%	37%

Q：（投資家のみ）以下の投資を行う場合、現在の自身のESG投資からどのように認識が変化するか



Q：（投資家のみ）Society 5.0と親和性高い課題、ESGと親和性の高い課題



Society 5.0 for SDGsに資するESG投資は高リターンの期待

Society 5.0 はESG投資の課題解決の対象を広げる **13**

Keidanren
Policy & Action



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



Theater 5.0

